



2019年度

稲作こよみ

津安芸農業協同組合
監修 J A 全農みえ

生育時期	播種	田植	中干し開始	出穂		落水	成熟
				20日前	18日前		
みえのえみ	3/26	4/20	5/30	6/25	7/15	8/12	8/19
コシヒカリ	3/24	4/15	6/1		6/27	7/15	8/20
	4/5	4/25	6/5		7/2	7/20	8/25
キヌヒカリ	3/31	4/25	6/4	7/6	7/26	8/25	9/2
みえのゆめ	4/10~15	5/5	6/14	7/16	8/5	8/31	9/7

水管理	主要作業	病害虫防除
<p>・活着するまで深水にして保護 ・田植中はひたひた水</p> <p>・溝切りを!! ※乾きにくい圃場は 中干し開始遅れないうちに 1株20本程度になったら</p> <p>・中干し直後は走り水 ・根痛みに注意!!</p> <p>・出穂期は水が必要 ・重要水管理期間 未熟粒防止の為に</p> <p>・落水が早いと減収する ・収穫7日前まで土壌水分を維持</p>	<p>・一発処理除草剤散布 田植(坪当り50)70株・ 葉いもち病 イネミズゾウムシ イネドロオイムシ イネミズゾウムシ 防除(箱施用) 初期除草剤散布</p> <p>・播種量は催芽粉1.5~1.8g 塩水選・種子消毒</p> <p>・中期除草剤散布 ・(後期除草剤散布) ・マルチサポート又はけい酸加里 ・登録向上資材施用 ・イネクロカメムシ防除 ・第一回穂肥 ・穂いもち防除 ・第二回穂肥 ・葉いもち予防 ・紋枯病防除</p> <p>・ケイカル・ようりん施用 ・堆肥施用 ・土づくり ・収穫後早期に耕起する ・一穂に青粉が2~3粒残って ・適期刈り取り</p>	<p>箱施用の防除(田植時の防除)</p> <p>イネミズゾウムシ・イネドロオイムシ ○箱施用による1回防除 「バリアード」箱粒 移植前に1箱当り50g施用 ○箱施用ができなかった場合の防除 「トシボソ」 10アール当り2kg 5月中旬~6月中旬に施用</p> <p>生育中期の防除</p> <p>葉いもち ○予防は粒剤で防除する コラトップ粒 3kg キタジnP粒 3kg ○発生を認めたら直ちに粒剤で 防除する ブラシンDnL 3kg</p> <p>穂いもち コラトップ粒 3kg フジワン粒 3kg ○穂ばらみ期(粒剤、粉剤)、 穂揃期(粉剤)</p> <p>出穂期前後の防除</p> <p>いもち病・カメムシ類 ダブルカットスタークル粉DL 3kg ○出穂期~穂揃期の夕方に防除する</p> <p>紋枯病 モンカットフロアブル 500ml ○出穂前15日前後が散布適期</p> <p>稲こらじ病 モンガリット粒 3kg ○出穂2~3週間前が散布適期</p> <p>カメムシ類 スタークル粒 3kg ○イネクロカメムシは発生初期 6月上旬頃 ○斑点カメムシは出穂期前後</p> <p>カメムシの食害による斑点米は等級落ちの原因となります。しっかりと防除をしましょう!</p>

※農薬を使用する際は、周辺作物等への飛散(ドリフト)に充分注意してください!! ※気候条件によって前後する場合があります。

白未熟粒(シラタ)軽減対策

白未熟粒の発生は、出穂後20日間の平均気温が27℃を超えると急激に増加する。また、発生要因は高温だけでなく、水や日照時間、施肥量不足などの複合的な要因も考えられている。平均気温が27℃以下になる頃に収穫時期を迎えるように田植えを行うことが望ましいが、その場合、田植えが6月上旬頃となる。

上記のように作付け時期を遅らせる、もしくは作付け時期の遅い品種に変更することが白未熟粒を軽減させる対策としてはもっとも有効と考えられるが、現状では困難であるため、下記の方法を白未熟粒軽減対策として推奨する。

- 土づくり
ケイカルなどの土壌改良資材を収穫後に散布し、根張り良くしっかりとした稲を作り、倒伏や病害虫を発生しにくくし収量・食味を向上させる。
- 早期落水の防止
早期に落水する事により土壌水分が低下して、株が枯れ、白未熟粒が発生しやすくなるので収穫7日前までは落水せず、土壌水分を維持させる。
- 白未熟粒軽減資材の活用
数年前より、県の農業研究機関にて試験を行なった白未熟粒軽減資材(下記参照)を施用する事により軽減させる(但し、気象条件等により効果に差があります)。

施肥設計

◎コシヒカリ元肥一発(10a)
白未熟粒軽減資材

施用時期	肥料名	施用量
田植10日前~田植時	エムコート022	35~40kg

◎コシヒカリ分施肥栽培肥料(10a)

施用時期	肥料名	施用量
田植10日前~田植時	水稻元肥化成284	25~35kg
追肥第1回目(出穂18日前)	NK化成7号	10~20kg
追肥第2回目(出穂7~10日前)	NK化成7号	10~20kg
追肥第3回目(出穂期頃)	NK化成7号	5~10kg

◎その他の品種元肥一発(10a)

品種	肥料名	施用量
あきたこまち みえのえみ	エムコート489(早生用)	40~50kg
みえのゆめ	セラコートR2500(中晩生用)	45~55kg

◎品質・登熟向上資材(10a)

資材名	施用量	施用時期
けい酸加里	20~40kg	出穂前45~35日まで
マルチサポート	20~40kg	出穂前45~35日まで
FTEミネラス	3~6kg	出穂前35~25日まで

効果
1.活力ある根が張り、稲体を強化し倒伏に強くなります。
2.登熟が高まることととも粒張りが良くなり、食味向上に役立ちます。

育苗

◎種子の準備 毎年種子更新しましょう。
◎塩水選
うるち米 1.13の塩水 水10ℓ 食塩 約2.1kg
もち米 1.06の塩水 水10ℓ 食塩 約0.9kg

◎種子消毒

作業	温度・日数	要	点
消毒	15~20℃ 24時間	みえのゆめ以外の品種 種粒と同容量の薬液を作る(水20ℓ当り) テクリートCフロアブル...100ml (馬鹿苗病もみ枯病) スミチオン乳...20ml(イネシロガレセンチュウ)	
		みえのゆめ 種粒と同容量の薬液を作る(水20ℓ当り) モミガードCドライフロアブル...100g (こま葉枯病(必須)、馬鹿苗病もみ枯病) スミチオン乳...20ml(イネシロガレセンチュウ)	
浸種	10℃では 10~12日 15℃では 7日~	水の量は粉の容積の2倍以上とする 始め2~3日は静置、その後1~2日毎に水を換え コシヒカリでは長目に漬ける ※積算温度100℃以上	
催芽	30~32℃ 1~2日	ハト胸とし、芽は伸ばさない	

(注) テクリートCフロアブルは使用前に容器をよく振ってから使用して下さい。
薬液は河川水路に流さないでください。

◎育苗箱消毒 イチバン500~1000倍液に箱をさっと浸ける
◎培土 箱入れ後、乾かさないうち注意しましょう。
(1箱当り約3~4kg必要)
◎病害防除

農薬名	時期	1箱当り施用量	備考
タチガレエースM粉	播種前	6~8g	ムシ苗にも有効
タチガレエースM液	播種時	500~1000倍、 500ml	ムシ苗にも有効

◎播種 厚播きは苗質を悪くする。催芽粉1.5~1.8gとする。均一に播く。土の表面の水が引いてから播種する。覆土は粉がかけられる程度

◎育苗管理

作業	温度・日数	要	点
出芽	30~32℃ 約2~3日	芽の長さ1~1.5cmにする 光を当てない	
緑化	日中20~25℃ 夜間15~20℃ (保温・暖房) 約3日	緑化は2段階の作業 (1)緑になるまで覆いをする(新聞紙など) (2)鞘の部分を3.5cmに伸ばす フジワン粒による健苗育成、ムシ苗予防 播種後3~7日に散布。25~50g/箱 早い程、又葉量が多い程短苗になるので注意 被覆中もカビの発生に注意	
硬化	日中15~20℃ (換気) 夜間10~15℃ (保温) 約15日~20日	日中高温にしないよう特に注意する 緑化用の厚手白ビニールは使わない ハウス・トンネルは一日中日当りの良い場所 灌水は1日1回、1~1.2ℓ/箱 午前中(遅くとも15時まで)がよい ハウス内にワラ、モミガラがあるとイもち病が伝染する。 箱の下にビニールを敷く場合は穴をあける	

土づくり

土づくりは品質向上への第一歩です。

(1)有機物の施用 堆肥を連年施用する(年内施用) 1~2トン
湿田・半湿田では完熟のもの500kg
稲わらすき込み
●秋起こし(刈取直後)
●石灰窒素10~20kg(秋起こし時)施用

(2)深耕 作土層を深くする(15~20cm)
下層が不良土壌の場合は行わない

(3)土づくり肥料の施用
ケイカル 又は リンスターケイカル 200kg
単品ならケイカル 200kg
又は ようりん リンスター 40kg(黒ボクでは 80kg)
コシヒカリには特にケイカルが必要
ケイカルは省ケイカル 農カアップなら反当り100kg

除草

※使用時期は、JAがオススメする散布適期です。

使用区分(日)	田植	3	5	7	10	15	20	30	40	50
難防除雑草多発田(抵抗性ホタルイ対策剤)	サキドリEW	除草剤を 使用でき ない期間	ウイナー1キロ粒 ・フロアブル	トップガンGT1キロ粒 ・フロアブル	抵抗性ホタルイには バサグラン粒・液	抵抗性ホタルイには クリンチャー・バスマE	抵抗性ホタルイ・ノビエには クワックワックワ コウヤガラにはハイカット粒	イボクサ・ササナムには ノビエ液		

体系処理 除草剤を
使用でき
ない期間 → クラール粒 → コメットジャンボ
※田植同時散布が可能です。 ※通常より少し遅めの散布が良い。

除草剤の正しい使い方
●散布適期、散布量を厳守する。
●田面の均平と適正な水管理。

田植え同時散布可能な
初中期一発除草剤
●トップガンGT1キロ粒
●トップガンLフロアブル
●ウイナー1キロ粒
●ウイナーLフロアブル

ノビエに対する使用時期

農薬名	使用時期
ウイナー1キロ粒	2.5葉期まで
ウイナーLフロアブル	2.5葉期まで
トップガンGT1キロ粒	3.0葉期まで
トップガンLフロアブル	3.0葉期まで
コメットジャンボ	2.5葉期まで
カウソルエナジージャンボ	3.0葉期まで
アルファプロジャンボ	2.5葉期まで

※ムシ苗防止 健苗育成にフジワン粒!! イネミズゾウムシ・イネドロオイムシ・ニカメイチュウ・いもち病にはDr.オリゼスタークル箱粒で!!
※品質向上には、毎年種子更新と土づくりをしましょう!! ※稲ワラの流出防止のため収穫後早期に耕起しましょう!!

防除日誌

使用月日(天候)	使用薬剤名	倍率・量	全使用量	使用目的
月 日()				
月 日()				
月 日()				
月 日()				
月 日()				
月 日()				

作業日誌

作業月日	圃場	作業内容	備考
月 日			
月 日			
月 日			
月 日			
月 日			
月 日			

安全・安心な米づくりのために栽培履歴(防除日誌)を必ず記帳しましょう! 農薬の安全使用基準を守りましょう!